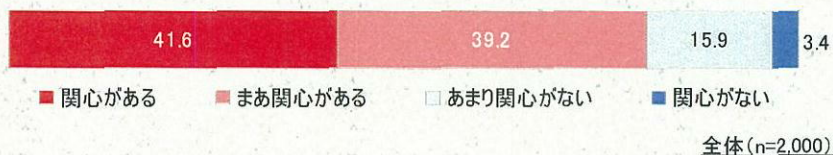


5-1. 介護制度について

関心度



- 介護制度に「関心がある」人は**42%**。「まあ関心がある」人を含めると全体の**81%**の人が**関心をもっている**。
- 女性の方が関心が高く、「関心がある」・「まあ関心がある」の合計では、男性**77%**、女性**84%**と**女性の方が高くなっている**。
- 年代別では、**年代が高くなるほど関心も高くなる傾向**。「関心がある」と回答した人は、20代が**17%**に対して、70代は**70%**と**50ポイント以上の開き**がみられ、世代間での介護制度への関心度の差が大きい。

給付と負担のバランス



- 「給付水準を保つために、ある程度の負担の増加はやむを得ない」と考える人が最も多く**37%**。続いて「給付水準をある程度下げても、従来どおりの負担とすべき」と回答した人が**30%**。
- 負担増に関して、大別すると、**反対が43%**、**容認が40%**となっている。

問題点・改善点

- 自由回答を大別すると「サービス従事者・介護者関連」「介護サービス関連」「制度関連」「介護保険料」に大きく分かれた。
- 「**制度**」に関しては、“無駄が多い”“介護認定の厳格化”“制度が複雑すぎる”など、**抜本的な制度改革**を求める意見が多くみられる。
- 「**サービス従事者・介護者関連**」については、“従事者の待遇改善”を問題点として挙げる人が多く、全体の**18%**にのぼっており、**重労働低賃金による介護サービスの低下・離職者増加を危惧する声**が目立っている。
- また「**介護サービス**」に関しては、“**施設不足**”を挙げる人が多く、**サービス体制をまずは整えるべきだ**とする意見が多い。

高齢者と現役世代の負担のあり方



- 「**高齢者と現役世代双方の負担の増加はやむを得ない**」と考える人が最も多く**43%**。
- 現役世代への負担を求める人が**16%**、高齢者への負担を求める人が**15%**で**ほぼ同率**となっている。